

令和6年度第2回中央区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

日 時：令和7年3月18日（火曜日）
午後2時00分～午後3時36分
場 所：中央保健福祉センターボランティア活動室
出席者：委 員 24名（欠席3名）
事務局 12名
傍聴人 0名

【1】次 第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 中央区長あいさつ
- 4 議題
 - （1）令和6年度の地域活動の取組状況について
 - （2）福祉まるごとサポートセンターの相談事例及び拡充事業について
- 5 その他
 - （1）推進協だより第28号（案）について
 - （2）令和7年度のスケジュール（案）について
- 6 閉 会

【2】議事要旨及び発言要旨

<開会>

- ・委員27名のうち、24名の出席を確認して開会した。
- ・委員長あいさつ及び区長あいさつ後、事務局から会議の公開について説明があった。

<議題（1）令和6年度の地域活動の取組状況について>

社会福祉協議会地区部会の各委員から資料1についての報告があった。

（都地区部会：栗田委員）

令和6年度は予定していたすべての活動を実施することができた。例年どおり幼児から高齢者まですべての年齢層の方が参加できるような企画に基づき実施。参加者は定着しており、特に10月に開催している芋ほり大会は100名定員で募集しているが、毎年申し込みが増えており、166名の参加があった。ふれあい食事サービスについては、新型コロナウイルス感染症の関係で、会食からテイクアウト方式に変更し、年6回実施したが、令和7年度は従来の会食方式に戻して再開することを検討中。

去年の夏あたりからスタッフの健康上の問題や家庭の事情でやめたい方が出てきており、これからは内容の検討というよりも今までのものを持続するためにスタッフをどうやって集めるかということが喫緊の課題。

（末広地区部会：秋元委員）

民生委員主体で町内自治会の役員と活動をしているが、新型コロナの関係で3年間休止し、去年くらいから活動を再開したが、どこのグループも昔のような元気がない。グラウンドゴルフや防犯パトロールは外でやっているのよいが、室内でやっているふれあい交

流会などは参加者が少なく、良い活動ができていない。今後は前のような地区の活動に戻ることを期待している。

(寒川地区部会：草薙委員)

活動は例年どおりすべて実施。6つの町内自治会があるが、それぞれの町内自治会に依頼し、民生委員、町内自治会の役員、近隣の方の協力を得て、見守り活動を実施。災害時要支援者の見守りと支援の関連で、毎年、避難訓練を実施しており、去年は防災訓練も実施したが、消防署の火災出動のために短縮された。避難所運営委員会の訓練は実施しているが、防災倉庫の確認やマニュアルに沿った活動しかできていない。市では学校が指定避難所になっているが、町内自治会でも避難できる場所を確保していただくよう依頼。いきいきサロンも例年どおり毎年6町内自治会で月1回ずつ開催しているが、サロンのボランティアの方々も高齢で、体調不良により開催できない月もあった。子育てサロンは毎月開催。ふれ愛社協まつりはお年寄りから子どもまで各年代の方が集まり、模擬店やグラウンドゴルフ・ボッチャ大会など例年どおり実施。

令和7年度も今年度同様に実施する予定。

(ちば中央地区部会：高橋委員)

残念ながら大きく変わった活動はしていない。新型コロナのあと、他の地区でも一緒だと思うが、参加者が少なくなった。取組項目11 世代間交流と生涯活躍の場の提供の取組みについて、地区内にある小学校（本町小学校）4年生から世代間交流したいので、敬老会や老人会などを紹介してくれないかという要望があり、高齢者が集まる「いきいきサロン」を紹介した。昨年度、今年度と2年続けて参加しているので、今後も定着することを期待している。小学4年生の1クラスは自分たちよりも年下の子どもたちとの交流（幼稚園）、もう1クラスは自分たちよりも年上の人たちとの交流（いきいきサロン）をしている。高齢者1人あたり小学生1.2人くらいの割合で活動。明るい子どもたちが多く、高齢者は元気をもらい、児童からはとても良い話が聞けて楽しかったという感想を得ている。すぐに力になるとは思っていないが、30年・40年後の地区部会・福祉活動の担い手になるよう一生懸命種まきをしている。

(中央東地区部会：金井委員)

当初の計画どおり進められた。新型コロナの関係で、参加者がちょっと減ったが、今はほぼ元のように戻るも、参加者が新しい人になってきている状況。取組項目1の地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進について、地域ケア会議等はやっていないが、個別の会議をしたところ、認知症にかかる問題を抱えている家庭が多く、民生委員や区高齢障害支援課、あんしんケアセンターといろいろと協議をしている。今年度はまず役員幹部が認知症に対する理解を深める研修に参加したり、椿森中学校1年生を対象にした認知症キッズサポーター養成講座の見学をしたりした。また、地域の有志グループが令和6年5月に認知症カフェ「お茶の間椿」を開設。月1回の開催で、参加者はまだ少ないが、参加者はみな楽しんでた。生活支援コーディネーターの坂本さんや市の職員も参加し、貴重なアドバイスをいただいた。地域の高齢者の居場所や認知症のある方の家族等が少しでも介護の負担軽減につながるような支援をしていきたい。令和7年度は今年度の実績を踏まえ、認知症に対する理解を深める研修会を実施したい。

見守り体制は今年の7月で10年目を迎える。活動もマンネリ化したり、見守り希望者や協力員も減少したりしているため、再度原点に戻り、見守り活動に関するアンケートを

実施し、1158件の回答があった。

見守り活動の認知度 知っている : 151件 (13%)
なんとなく知っている : 507件 (43%)
知らない : 500件 (43%)

見守りの希望者 106件 (1割)

見守り協力員の希望者 100件 (12%)

※「見守り協力員として協力したい」の質問に対する回答総数：845件

このアンケート結果を踏まえて、今後、見守り希望者や協力員の希望者に対して、見守り活動に参加していただく準備を進めており、令和7年度はさらなる周知を図るため、見守り活動についてのパンフレットを作成するなどして、見守り活動の強化を図っていく。

(東千葉地区部会：村井委員)

予定どおりの活動がほぼできた。今年度は、取組項目1 地域の支え合いに関する協議体等の設置・推進の取組みが進んだ。4つの町内自治会、社協、民生委員、有志で活動している東千葉 和・輪・環の会が入っている「地域づくり懇談会」で、地域の情報共有などをしてきたが、それぞれが計画している年度の大きな行事をすべて一覧にして、4月に住民に提示して、1年の地域活動の全体が見えるような形で知らせることができた。

地域づくり懇談会の中で、お祭り、防災、福祉活動の情報交換をしつつ、お互いの資源（ひと、行政サービスなどの情報）を出し合って、それぞれにつながりを強めながら、地域住民の意欲や知識、経験などを見つけ出して、つなげ合わせることで、いろいろな活動ができた。その一つが「東千葉ふくし展」。高齢化率が40%近い地区なのだが、これからの介護や詐欺など気になっている身の回りの不安なことを解消するサービスや行政機関などが一堂に会し、来場者に情報提供した。家族を介護する立場になった50代・60代の方がご両親と一緒に来場し、地域の中で知ってもらって安心したという感想や、お祭りのボランティアに若い世代の方が参加し、次の世代につながっていく糸口ができた。

(西千葉地区部会：岩本委員)

すべての活動を開催することができた。地域の見守り活動等を通して、災害発生時に避難ができるような地域づくりに努めてきた。西千葉地区部会、第5地区町内自治会連絡協議会、第108地区民生委員児童委員協議会の三者協働で、平成19年から見守り活動として、「安心カード・緊急メモ」を作成し、現在は地域のひとり暮らし高齢者や障がい者、75歳以上の高齢者を対象に安心カードを配布し、玄関や電話のある場所に設置してもらっている。救急車での搬送時には、連絡先等が明記されているため大変助かったと感謝されている。また、民生委員・児童委員が把握している情報をもとに、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有しており、名簿とマップは今年度も更新した。災害時には、日常的な見守り活動を行っている協力員が、避難支援を行う体制をとっている。高齢者や障がい者で日常の買い物に困難な方のために、令和3年からヤックスの移動スーパーを毎週水曜日10:30～11:30まで登戸1丁目から新千葉3丁目の順に回っており、地域の方々から大変助かったと感謝されている。地区部会では、中央介護福祉専門学校の先生を招いて、健康体操教室など各種健康に関する行事を通して、地域住民の健康づくりに努めた。10月にふれあい福祉バザーを実施し、近隣の親子連れ、若者、高齢者が集まり、世代を超えた交流の場になった。町内自治会は、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安全確

認、避難訓練、初期消火、応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車、煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子どもたちも参加しており、地域住民が災害時において円滑に避難等ができるよう努めた。令和7年度もふれあい・いきいきサロンの活動として、地域の皆さんの話し合う場、語り合う場、学び合う場として交流・仲間づくりの場を目指し、安心して暮らせるお手伝いを無理せず楽しみながら活動していきたい。

(中央地区部会：河田委員)

11月2日(土)に予定していた社協まつりは前日の準備の時点で荒天のため中止の決定をしたが、決定が早かったので、残念ながら皆さんには振舞えなかったが、やきそば、フランクフルト、豚汁などの食材の注文はキャンセルすることができ、一切お金がかからなかった。11月3日(祝日)・4日(振替休日)に延期することも考えたが、スタッフや地域の皆さんを振り回すことができないため、延期しないという取り決めで行ったが、それが来年度以降の課題。もう一つの課題はスタッフ不足で変わりなし。

(新宿地区部会：鈴木 茂子委員)

ほぼ前向きに実施できた。取組項目3の見守り体制については、マンションが多い地区のため、見守り体制を構築するのが難しいが、民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら、見守り活動を行っている。これまでは75歳以上の方へ安心ファイルを配付していたが、今年度はもっと簡単で使いやすい安心カードを作成し配付した。その際は、現在、多い詐欺などの注意喚起もしながら配付。取組項目5のすべての子どもを地域で育てるについては、初めて出産を経験した両親を対象に、子育てに関する悩み相談及び母親同士の友だちづくりの場所として、「ぶち・あんじゅ」を年4回開催。また、母親を対象とした子育てサークル「学びと気づきの教室『mama'sの会』」を月1回開催し、参加者は伸びている。取組項目6のふれあい・いきいきサロンは今まで新宿地区部会の高齢者福祉委員会が歩こう会を開催していたが、あんしんケアセンター中央で開催しているものと重なるものがあるので、令和6年度からはふれあい・いきいきサロンを年6回実施することになった。参加者は毎回多いが、いつも同じ人なので、ほかの方にも周知できたらと思っている。取組項目18のセーフティウォッチャーは、小学校の見守り隊とセーフティウォッチャーのグループラインで、不審者情報や危険箇所などの情報共有をしながら、子どもたちの安全を見回っている。また、各町内自治会で、月2回、防犯パトロールを実施している。避難所運営委員会を中心に避難訓練を実施し、各町内自治会で、防災に対する様々な取組み(例「無事ですタオル」の掲示、ハイゼックス米の炊き出し訓練)を実施。地区部会の活動を知らない地域住民もまだまだ多いので、どうやって周知するのが課題。

(千葉みなと地区部会：石原委員)

千葉みなと地区部会は7年前に組織された地区部会で、人がいなかったため、部会の中に委員会(グループ)はなかった。昨年春にボランティア募集というチラシを地区内のマンションに投かんしたところ、やっと1名の方から応募があり、この4月から2名~3名の体制で「支え合いサポート隊」という名称で活動することになったので、今年度は2支え合い活動の仕組みづくりについて、着実に進めていこうと思っている。ほかの地域の活動内容や方法を参考にして、ボランティアの人数を確保することも含めて、活動の中身を充実させていきたい。現在、問屋町、千葉港、中央港の3つの地域で地区部会を構

成しているが、各地域でばらばらに計画立案・実施をしており、資料の中身もばらばらの内容になっているので、地区部会の中で情報共有することを、支え合いサポート隊中心に行っていきたい。

(蘇我地区部会：穴倉委員)

計画どおり事業を進めて、ほぼ達成している。今年度はフレイル予防についての事業を急遽組んで、健康課の協力のもと5か所で講演会を開催し、かなり多くの方が参加した。また、フレイルに興味のある方が多く、もっと元気が出るものがないかとの要望から、歌声サロンを蘇我コミュニティセンターで開催し、100名近くの方が参加した。今後ともできれば計画に組み入れていきたいと思っている。「わくわくキャンパス」に地域の全関係者（民生委員・主任児童委員・社協地区部会）が加わって実施しており、地域は地域で守るということを目指している。高齢者・障がい者の地域社会での福祉活動の促進については、新型コロナの影響で施設には行けなくなったため、いきいきサロンに出てきてもらうよう施設に案内したところ、いくつかの施設の方が参加したので、これからも声をかけたいと思っている。

(白旗台地区部会：土屋委員)

予定していたことはすべて実施できた。町内自治会が42あって、学校も1中学校・3小学校で、かなり広く、いろいろな地域があるので、全体的なことをまとめてやるのは難しい地域だと思うが、地域支え合い活動事業「きずな隊」も5年になり、草取り・ゴミ出し・買い物支援などのメニューがあるが、新型コロナもあり、今はゴミ出しの利用がほとんど。今年度から市の高齢者等ごみ出し支援事業補助金も活用しており、月40件くらいゴミ出しをしている。協力者の高齢化による見直しも随時行っている。子育てサロンは週1回開催しており、さらに健康課からの要請があり、町内自治会もないまだ新しい住宅地で出張サロンを年2回開催している。2か月児くらいのお子さん連れの母親もあり、たまに父親や祖母も参加しているが、引っ越ししてきたり、子どもを産んで母親だけで煮詰まったりしている方の情報交換（病院ほか）ができ、友達づくりもできてとても良い場所になっている。子育てサロンで顔見知りになった、小学生になったお子さんの両親から民生委員をやってもよい旨の話があり、とてもうれしく思っている。いろいろなつながりができて、地区部会の皆さんもよい場所だと思っている。高齢者のいきいきサロンは町内自治会主催のものは年132回、回数としては新型コロナの前に戻ってきているが、参加人数はまだ少ない。健康課の保健師・看護師等とあんしんケアセンター松ヶ丘の協力で行っているいきいきサロンはフレイルを中心にしたもので、とても良かった。ふれあい食事サービスは淑徳大学と連携し、その食堂で作って、民生委員が配達している。蘇我地区部会と青少年育成委員が同じなので、青色回転灯パトロール（青パト）や「子どもによる子どものための子どもの権利条約」の読書感想文などを20年くらい実施している。

(生浜地区部会：長嶋委員)

支え合い活動はコロナ禍の前からボランティア委員会の中で話し合いを進めてきたが、実施しようとしたところ新型コロナの感染拡大が始まり、中断。あんしんケアセンターにゴミ出し支援の相談が寄せられている話を聞いて、地区部会の事業も新型コロナ感染拡大前と同じようにできるようになってきたので、ゴミ出し事業の検討を再開。福祉活動推進員にごみ出しについてのグループワークを行い、全体的には実施する方向になった。ゴミ出し支援を支える人の組織化ということで、いきいきサロンに参加している人にゴミ出し

支援のアンケート調査を行い、支援予定者の名簿を作成し、2世帯にゴミ出し支援を行っているが、実施するにあたり、いろいろな意見があるので、できるところからやって行き、そこから広げていくしかないかなと思っている。

(松波地区部会：小野寺委員)

だいたい計画どおりに活動ができた。ふれあい事業としては、散歩クラブとして、松波みんなで歩こう会を月1回実施。いきいきサロンは、脳トレ会を月2回、ウクレレ会を月2回、卓球会を週1回、グラウンドゴルフを週2回実施。子育てサロンは仲良し会として、月2回実施。今年度の重点取組項目の世代間交流と生涯活躍の場の提供として、地域食堂「松波のちゃぶ台」を月2回開催し、様々な世代の方が利用している。テイクアウトも実施しているので、毎回60食くらい出している。また、多世代間交流の場の「ドッキングプレイス」を計画しており、春休みの3月30日に開催予定。昨年度は高齢の方や小さなお子さんも参加していたので、今年もそのようになったら良いなあと思っている。

松波地区部会は1町内自治会・1社協地区部会・1地区民児協ということでとても活動しやすい地域。松波敬老祝賀会などは3者の共催で実施。松波敬老祝賀会や夏祭りは地区内にある千葉商業高校とクラーク記念国際高校千葉キャンパスの生徒に協力していただき、活躍されている。

昨年度初めて、東千葉地区部会の東千葉ふくし展を参考にして、あんしんケアセンター弁天、中央区障害者基幹相談支援センターの協力のもと、「松波福祉フェスタ」を開催。いろいろな福祉関係者に来ていただき、結構楽しいイベントになったので、来年度もできたらと思っている。

(松ヶ丘地区部会：伊藤委員)

松ヶ丘地区部会は、①高齢者福祉委員会、②児童母子福祉委員会、③障害者福祉委員会、④ボランティア委員会、⑤福祉ネットワーク委員会、⑥見守り委員会の6つの委員会があり、事務局・役員を含めてスタッフ72名で構成している。

支え合い活動の仕組みづくりとして、地区部会スタッフを中心とした「ひだまり運営委員会」が、住民が気軽に立ち寄れる地域の交流の場を運営した。地区部会が、ふれあい食事サービスを年3回実施した(1回あたり210食)。地域住民が気軽に集まり、誰もが参加できる集い・交流の場を設けた。見守り体制をつくるとして、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などのうち、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方に対し、目配りや電話による安否確認を実施し、継続した見守りに取り組んだ。また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。地区部会定例理事会を毎月第3土曜日に開催し、活動報告を行っている。地域での健康づくり支援の充実として、地区部会が「いきいきサロン」や高齢者向けの集いの場「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学の協力を得て、介護予防やひきこもり防止の講話(相談を含む)を実施した。また、「いきいき散歩クラブ(高齢者福祉委員会)」を月2回開催。さらに、地区部会が千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、週1回、500m以内で誰もが行けるように5か所(松ヶ丘公民館、恵光園、仁戸名町内自治会館、第3公園、星久喜公民館)でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。世代間交流と生涯活躍の場の提供として、地区部会が毎週金曜日の17:00~20:00に「ひだまり」で「大人の時間」を実施

し、地域住民の交流の場を提供している。飲食やカラオケをしながら、地域のことについて意見交換を行い、意思疎通を図っている。相談体制・情報提供の充実として、地区部会が広報誌を年3回発行し、約4000部を全戸配布。各委員会が順番に情報提供した。

年間の行事はほとんどできているが、児童母子と障がい者の取組みは新型コロナの関係であまり進んでいないので、これから進めていきたい。

(川戸地区部会：大野委員)

川戸地区部会は川戸中学校区の各団体の協力を得て、全体的に活動をしている。

いきいきサロン「ひまわり会」を毎月開催。4月は10名くらいの参加だったが、回を重ねるたびに増え、15名くらいになった。一方、社協地区部会の役員は減少しており、活動が大変になってきている。体を使うボッチャやeスポーツ(2月～)を取り入れ、新しい取組みをした。

(星久喜地区部会：進藤委員)

3月14日(金)の日帰りバス旅行を最後に、すべて計画どおりできた。バス旅行は大型バス1台で木更津方面に行き、かずさアカデミアパークにある八天堂カフェリエきさらぶでのパン作りや證誠寺などを訪れた。星久喜地区部会は1小学校・1中学校で、夏の盆踊りは3つの町内自治会で実施するだけで、地域全体の祭りはなかったので、地域運営委員会の方が実行委員になって、11月3日に星久喜中学校で「星フェス」を開催。地区部会は輪投げを行った。あんしんケアセンター松ヶ丘及びあんしんケアセンター千葉寺も参加し、各団体の地域活動について知ってもらった。来年度は10月に星久喜小学校(昨年度は体育館が改修工事中だったため)で開催する予定。

(武井委員長)

17の地区部会すべてから、お話をさせていただきました。何かご質問やご意見等がありましたら、挙手の上、お名前を名乗ってからご発言をお願いします。

(綾野委員)

蘇我地区部会で「わくわくキャンパス」の来年度の話がありましたが、来年度以降、アフタースクールになるところが多いが、そのあたりの関係はどうなっていますか。

(宍倉委員)

わくわくキャンパスは社協地区部会の方、民生委員、PTAのOBの10人くらいが手伝っている。

(綾野委員)

制度そのものはアフタースクールに変わるのでは。

(宍倉委員)

できるだけ地域でやろうと思っている。

(綾野委員)

学校単位で業者が決まってくるのでは。

(宍倉委員)

アフタースクールになるまではこの形で実施していきたい。

<参考>

・放課後子ども教室(わくわくキャンパス)について

<https://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/houkago.html>

- ・アフタースクールについて

<https://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/shogaigakushu/afterschool.html>

(武井委員長)

ほかに何かご質問やご意見等がありましたら、ご発言をお願いします。

(伊藤委員)

松ヶ丘地区部会の役員は70人くらいだが、ほかの地区部会の役員は何人くらいか。参考までに聞きたい。

(宍倉委員)

蘇我地区部会の役員は40人くらいです。

(土屋委員)

白旗台地区部会は福祉活動推進員が20名くらいで、それぞれの部会の委員長をしており、30人くらいの民生委員（全員地区部会に所属）が中心になって、子育てサロンなどを行っている。

(武井委員長)

白旗台地区部会について付け加えると、町内自治会の会長は全員理事にしており、42人いるので多いが、地区部会の役員の中に引き込んで実施している。

(武井委員長)

ほかにご発言等がなければ、議題（1）の報告は以上となります。

<議題（2）福祉まるとサポートセンターの相談事例及び拡充事業について>

福祉まるとサポートセンターの森池主査から、資料2を使用しながら、福祉まるとサポートセンターの相談事例や拡充事業について説明があった。

(武井委員長)

何かご質問やご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。

(各委員)

特になし。

(武井委員長)

特にご質問等がなければ、議題（2）の説明は以上となります。

<その他について>

【事務局】

(1) 推進協だより第28号（案）について

中央区高齢障害支援課矢野主査から、資料3についての説明があった。

意見等はなく、推進協だより第28号の内容について、了承いただいた。

(2) 令和7年度のスケジュール（案）について

中央区高齢障害支援課矢野主査から、資料4についての説明があった。

意見等はなく、令和7年度のスケジュールや4月以降の委員の任期について、了承いただいた。

なお、次回の令和7年度第1回推進協は、7月9日（水曜日）午前10時30分か

ら、本日と同じボランティア活動室で開催することについて、口頭で説明があった。

<閉会>

事務局より議事要旨を千葉市ホームページに公開する旨説明し、午後３時３６分、中央区支え合いのまち推進協議会を閉会した。

以上